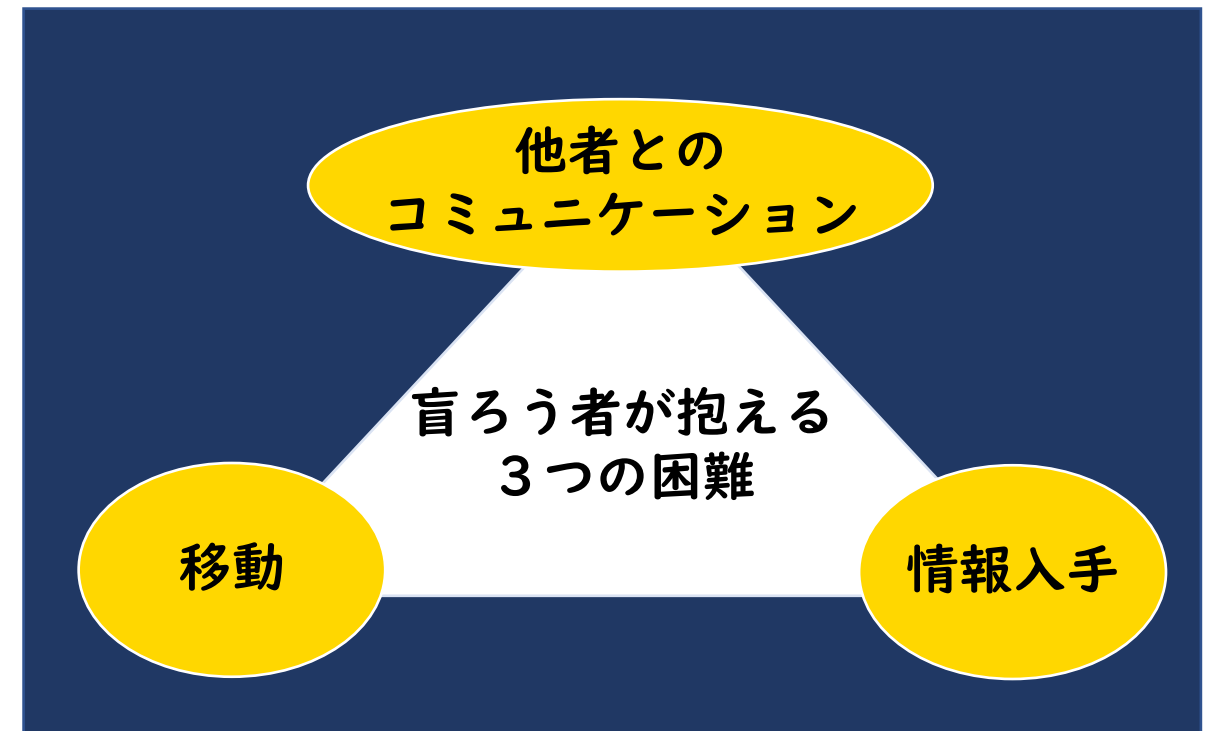
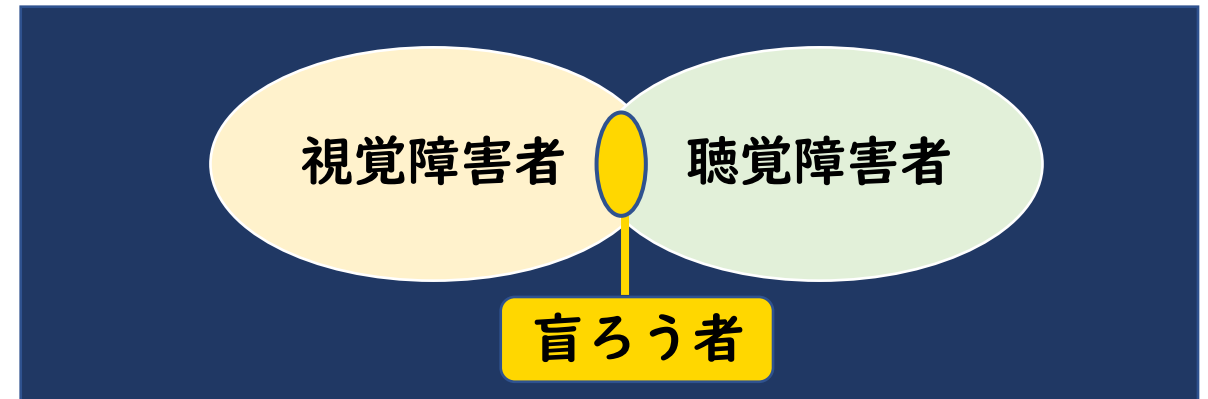


2021年度通常枠 PO研修

3. 企業連携や行政連携、事業化の成功事例・あるいは苦労した事例

社会福祉法人全国盲ろう者協会
伊藤 翔生

- ・ 目と耳の両方に障害を併せもつ人
全国に約1万4000人という希少な障害
- ・ 目と耳の障害の発症時期・程度によって状態が異なる
先天性・後天性、全盲ろう・弱視難聴など
- ・ 多様なコミュニケーション手段
音声・触手話・指点字・手書き文字など



盲ろう者の地域団体の創業支援事業

目と耳の両方に障害のある**盲ろう者**は、移動やコミュニケーションに困難を抱えている。当事者で構成された地域団体（友の会）に対し、外出時の支援を提供する**同行援護事業**の立ち上げ、盲ろう者の**掘り起こし**の支援を行う。



実行団体

NPO法人札幌盲ろう者福祉協会
NPO法人千葉盲ろう者友の会
NPO法人静岡盲ろう者友の会
NPO法人香川盲ろう者友の会
NPO法人宮崎県盲ろう者友の会

静岡、香川、宮崎の3団体
は事業開始時任意団体



行政と関わる
場面

事業者（実行団体）

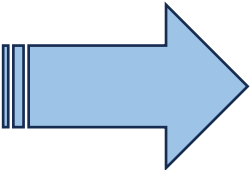
- ・ 開所するために、必要書類を揃えて所轄の市区町村へ提出、指定を受ける必要がある
- ・ 盲ろう者の掘り起こしを効果的に進めるためには、所在を知っている行政との協力が必要

利用者

- ・ 在住する自治体へ利用申請をし、受給者証を発行してもらう必要がある
- ・ 適切な支援を行うために、障害支援区分の認定を受けることが望ましい
- ・ 1ヶ月に利用できる時間の上限は、自治体の判断による

適切な利用時間が得られない場合には、必要性を訴えていく

担当者もわからない場合多い



同行援護事業を効果的に進めていくためには、行政からの理解を得ること、協力体制の構築が必要



宮崎市主催のふくしまつりに参加

- ・ 開会式の後、直接市長に声掛け
- ・ ブースへ訪問
盲ろう者と直接または通訳を介して交流

アタックの末市長と面会へ

市長との面会

- ・ 15分→1時間ほど
- ・ 市内の関係各所へパンフレット設置
- ・ 市内在住の盲ろう者数

宮崎市

- ・ 同行援護事業所の人員配置について
- ・ 国の解釈と異なる指導

厚労省に確認

厚労省からの回答

- ・ 市役所から厚労省へ問い合わせるよう依頼

- ・ 長にアタックすることの重要性
- ・ 当事者にも同行してもらう
通訳の様子も含め、生の声を伝える
- ・ 地道な活動だが、繰り返し社会に訴えていく
- ・ 企業との連携？
タイアップ、寄付等 うまくつなげている例があれば教えてください